

令和2年度に発表した病虫害発生予察情報

病虫害防除対策担当 宮田 穂波

(1) はじめに

当担当（病虫害防除所）では、県内の主要農作物について、病虫害の発生状況を調査・分析し、予察情報を提供することで、的確な防除を推進しています。

今年度の特徴的な予察情報として、7月の低温傾向による「イネいもち病」の注意報、高温傾向による「ミナミアオカメムシ」の特殊報、「トビイロウンカ」に関する防除情報を発表がありました。これら病虫害の特徴や防除対策を報告します。

(2) 水稲、イネいもち病（注意報 7月28日発表）

イネいもち病は、7月中旬の調査において、県内の調査地点のうち、60.9%のほ場で葉いもちの発病が確認されました（図1）。また、いもち病発生予測システム「BLASTAM」による「いもち病（葉いもち）感染好適日」の日数が、平年の2倍以上かつ過去10年で最も多い日数となりました（図2、3）。

これらに加え、翌8月の気象予報が「降水量が平年並または多い、日照時間が平年より少ない」とのことから、本病の多発や穂いもちへの移行が危惧されたため、注意報を発表しました。

今年度、多発生が見られた地域では、種子更新を行い、病虫害防除所の情報を活用して早期からの防除対策を実施してください。

(3) 水稲、トビイロウンカ（防除情報 10月13日発表）

トビイロウンカは、梅雨時期に南西風に乗って、中国大陸から日本へ飛来し、水稲を加害する害虫です。埼玉県では昭和40年代以降、目立った被害は発生していませんでしたが、10月に坪枯れ被害の発生が確認されました（写真1）。

本虫は水田の他のウンカ類と異なり、稲の株元付近を中心に寄生し、吸汁加害します。飛来時期が早いほどその後の発生量が多くなり、被害が発生します。

来年度以降も県内に飛来してくる可能性が考えられますので、株元を良く観察するとともに、ウンカ類を対象とした防除対策を実施してください。

(4) ミナミアオカメムシ（特殊報 7月27日発表）

ミナミアオカメムシは、6月末に県東部の露地野菜ほ場において県内で初めて発生が確認され、特殊報を発表しました。その後の調査において、県西部の水田内および県北部の大豆ほ場での発生が確認されました（写真2）。

本虫は広食性で水稲、大豆、野菜類や果樹類を吸汁加害することが知られています。特に水稲では穂を吸汁し、斑点米の原因となりますが、他の斑点米カメムシ類に比べて体が大きいため、低密度でも被害が大きくなるとされています。ほ場周辺での早期発見に努め、カメムシ類を対象とした防除対策を実施してください。

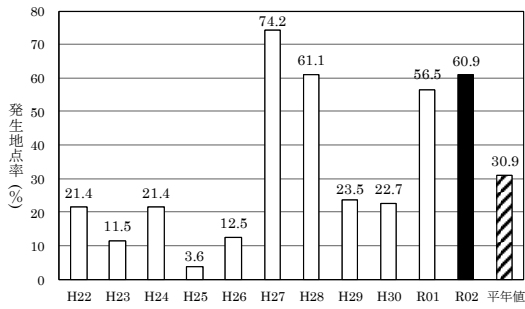


図1 葉いもち発生地点率

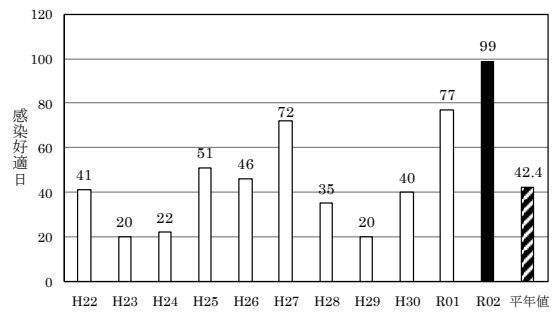


図2 いもち病感染好適日日数

令和2年 いもち病(葉いもち)感染好適条件出現状況
集計:埼玉県病害虫防除所(BLASTAM、JPP-NETより引用)

月日	05月01日 から 07月31日 までの 合計								本年計	昨年計	平年計
	寄居	熊谷	久喜	秩父	鳩山	さいたま	越谷	所沢			
07月01日	-	-	-	-	●	-	-	-	1	3	1.9
07月02日	-	●	-	-	-	-	-	-	1	1	0.5
07月03日	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
07月04日	-	-	●	-	4	-	-	-	1	6	2.4
07月05日	-	-	-	4	-	-	-	●	1	1	1.7
07月06日	●	●	●	●	●	●	●	●	8	0	0.8
07月07日	●	●	●	●	●	-	-	-	5	3	2
07月08日	-	-	3	-	-	-	-	-	0	5	1.1

図3 「BLASTAM」によるいもち病感染好適日

●: 感染好適日 (県内8地点)

アメダスデータより算出した、葉の湿潤時間や気温より判断されます。

感染好適日が連続した場合、7~10日後に発病すると推定されています。



写真1 トビイロウンカ (左:成虫、右:坪枯れ被害(点線部分が枯死))



写真2 ミナミアオアカメムシ

(左:成虫(水田)、中央:3齢幼虫(大豆ほ場)、右:成虫の腹部背面(動画参照))

詳細は病害虫防除所ホームページをご確認ください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/>

